

第 4 0 号
H26.9.22

文責：三澤庸助

学校だより 陽 心
～明日に夢を持って生きていこう～

栃木市立東陽中学校
教 育 目 標
自主・健康・奉仕



◇◇◇◇◇◇◇ 運動会特集 ◇◇◇◇◇◇◇



「己の心に炎をともせ 熱い心で勝利を掴め！」（3年5組 栃木快人君作）のスローガンのもと、平成26年度の運動会が予定どおり行われました。当日は、まさに秋晴れ。

多くの保護者の皆様やご来賓の皆様のご臨席をいただき盛大に運動会ができましたことに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。保護者の皆様にはお子様の活動の様子そして応援を通して、楽しんでいただけたでしょうか。今年も昨年に引き続いて学級別・色別対抗で行いました。



実行委員長 森脇柚香さん



スローガン唱和 大貴征士君 早乙女千尋さん



炬火入場 清野明日成君 野原秀佳さん

いこともあったと思います。いま、生徒及び教職員で反省用紙を用いて振り返りをしているところです。保護者の皆様からも何かありましたらお子様を通して情報をいただければと思います。これからも、より充実したより楽しい運動会を企画していきたいと思います。

特に色別対抗では、異学年集団が一体となって取り組むことに大きな意味があると考えています。中学生になると、縦割りで取り組む活動が少なくなります。部活動や生徒会活動では異学年集団での取り組みとなりますですがその他の活動ではほとんどありません。そこで、運動会では、3年生がリーダーシップをとって、同色の応援をすることで東陽中生としての一体感を作り出せるような取り組みを考えました。（ただし、全学年が同じ学級数でないときません）さらに今年度は、運動会プロジェクトチームの発案により、教職員も全員が6色に分かれ競技にも参加しました。3年生が1年生や2年生の応援をしている姿は若者らしく、とてもさわやかに感じられます。3年生は、自分たちにとって最後の運動会であることから当然力が入ってきますが、さらに、1・2年生のリーダーシップをとることによってより多くの思い出を作ることができました。

と同時に、成果を出すことができたのではないかと思います。1年生にとって、中学校での初めての運動会。一人ひとりがどんな思いを持って運動会に臨めたでしょうか。小学校とはひと味違った運動会というものを味わうことができたのではないかと思います。2年生は、1年生と3年生の橋渡し的な立場で自分たちの運動会を盛り上げることができたのではないかと思います。

全体としてみれば大成功のうちに終わった運動会ですが、細部に目を行き届かせると反省しなければならない点、あるいは改善しなければならないこともあると思います。



1年生から3年生までが円陣を作り互いに健闘を誓い合う



生徒代表宣誓 酒巻彭渕君 細内美咲さん



ブン×2 レース



2年団体東陽の架け橋



吹奏楽部の演奏

<成績>

学級別・色別成績			
	優勝	準優勝	第3位
1年	1-5	1-2	1-3
2年	2-6	2-5	2-4
3年	3-6	3-3	3-4
色別	6組	5組	3組



部活対抗リレー



3年生ザ・チェンジ



男子全員による組立体操



女子全員による東陽ソーラン



校旗退場 清水元気君



綱引き



《Coffee break》

昔の運動会

運動会といえば秋の風物詩。最近では天候等を考慮して春に行う学校もありますが...。かつて運動会の花形といえば騎馬戦そして棒倒し。今や騎馬戦や棒倒しといった競技はお目にかけられません。騎馬戦は相手を倒すまでやる。棒倒しは相手の背中や時には頭を踏み台にして相手の棒を倒しに行く。まさに、勇壮というか勇ましいものです。当然のようにけがはつきもの。その中でどの程度やれば相手にけがを負わせるかを学んでいったものです。バーチャルなゲームの世界ではありません。自分で痛みを感じれば、相手に対しての加減というものが自然に身についていくものです。しかし今は、それを学ぶ場がない。体験する場がないということは、時には不幸なことなのかもしれません。体験すること経験することは何よりの財産だと思うのですが...。



納火小口夏輝君



学級対抗玉入れ

